

◆ 春らん漫・花よい囀り！



春らん漫の4月2日は、定例会に13名の会員が集まりました。昨年の秋に青柳小学校の新1年生を迎える準備をしようと、当時の1年生と6か所の花壇にチューリップなどを植え込みました。しかし、入学式を目前にして雑草が茂ったため、10名の会員が手入れに向かい、6花壇全ての草取りと水撒きを済ませました。

昼時は、恒例の千鳥が池公園内の桜の木の下で、花見会となりました。アルコールなしにも関わらず、この人数が集まると話題が豊富で、日々の生活をユーモアに替え、笑いの絶えない交流の場になり、一時を楽しみました。

◆ サクラに負けぬ花壇花



4月9日の“はなちどり”定例日に12名が集まり、3方向に分かれて、花と競争する草の根を抜き取りました。

中でも、図書館前花壇では雑草の伸びが早く、7名の会員が、心を一つにして取り組んだ結果、順調に作業を済ませました。

今年の花壇は、どこもサクラに負けず劣らず、立派に生育してきれいな花を咲かせています。作業中、道行く人から「いつもありがとう！」の声掛けもあり、会員は声援として受け止めていました。残った組は、培養土購入運搬に係わり、次の作業に備えていました。

◆ 若竹駆除始まる

4月5日と4月12日は、医王寺山の竹駆除にそれぞれ3名で取り組みました。翌13日も数名が、竹駆除に取り組みました。

今年のタケノコは発生が少なく、植林地を一回りしても、数本見つけるのがやっとの状態でした。それでも放置すると木々の上に伸びあがり、植林木の成長に支障が出ます。竹の早期の駆除は必要で、オマケとして、筍の収穫がついてきます。

その後、込み合った植林地の枯木の整理や、周辺の除伐にも取り組み、林は一步、健全な森の姿に進化していました。



◆ 花壇つくりは継続決定！

平成31(令和元)年度は「花いっぱい運動」資金が解消したことから、今後の花壇の取り組みについて、生涯学習推進課長、都市計画課長と、会から4名が参加して、4月11日に話し合いの場を持ちました。

その結果、図書館前花壇は、予算を増額して継続することに。都市計画課所管のグリーンパーク花鉢は、現在の花が終わった時点で撤退となりましたが、JR古賀駅前については、ロータリー花壇にフェンス前を追加し、グリーンパークつつじ園剪定と合わせて委託契約として、継続することが決まりました。

◆ 記念樹桜・さらに成長！



平成23年3月、古賀グリーンパークの10万本植樹達成を記念して植えた、桜園の10本のサクラは今年も、順調に成長しています。

桜は、早咲きのカワツザクラ3本、ヨウコウザクラ3本とソメイヨシノザクラの4本で、年を重ねるにつれ、立派な花をつけはじめています。

桜園は、やや公園の奥まった地にあり、隠れた存在でしたが、年々、ファンが増えつつあり、この地の桜の数輪の開花から満開までを見届けようと、散歩の足を伸ばしています。

◆ 花は生き返る！

今年は、4月に入って雨が少なく、水の源の森の中さえ乾燥が進み、川の水位も下がっています。

グリーンパーク花鉢のパンジーも頭を下げだしたので、青崎会員ご夫婦が、4月6日に横大路会員の水タンクを借りて車に乗せ、11個の花鉢に水をやって回りました。前後して、JR古賀駅前花壇にも、京谷会員が、水やりをしています。会員の花を愛する気持ちが伝わって、その後は、いずれの花壇も、生き生きと花が咲き誇っています。



◆ 樹木札を手入れ

新緑にあふれる4月8日は、一会員が古賀グリーンパークの樹木札の手入れに努めました。

以前、公園内の樹木にラベルを取り付けていましたが、取り付けた木が成長するとともに、括った紐が幹に食い込み、樹木を痛める状態が見られるようになりました。

春は、木々が成長する時期に入るため、この機に、紐の括りかえや、紐の取りかえで、樹木に被害が出ないようにしたものです。



◆ 例会はダブル作業！



曇り空の4月23日は、“はなちどり”定例会に10名の会員が集まり、打ち合わせの結果、分かれて作業をすることを決めました。

県道側花壇に伸びた懸案の草取り組と、鉢上げ組とに分かれ、効率の良い作業に努めました。草取り班は、草刈機で花壇周囲の草を刈る一方で、パンジーの中に伸びた雑草の草取りに努めました。鉢上げ組は、ケイトウ、ジニア、アスター、千日草の幼苗をポットに丁寧に移植し、24個のポットをケースに並べて、水に浸して、ポットの下の方から水を取り込み、鉢上げを完成。いずれもベテランの手慣れた作業で捗りました。

◆ 総会準備は万全！

4月23日午後、9名の役員が“はなちどり”に集まり、4月27日に開催する総会準備に取り掛かりました。この日は、総会資料の平成30年度実績と当年度計画の内容確認や補充説明・修正文などを話し合い、さらに会計関係の突合、本年度役員を選定し、総会に備えました。

四方山話

「価値ある一冊」

昨春、抗がん研究の世界的権威である前田浩教授の書かれた！！最強の野菜スープ！！（マキノ出版）と言う本に出会いました。平成29年11月初版以来、静かなブームになっているようです。先生は長年の研究で生野菜を食べるより加熱、スープにした方がより抗酸化効果が高まることを立証されています。（文芸春秋特別号、平成30年3月発行、命を守る最強の食事、80人の専門家に聞くすべて医学的な根拠のあるものに紹介）

野菜の必要性は誰もが分かっていますが、一日350g以上を食することは、なかなか難しいものです。

それ以来、ほぼ毎日1回はこのスープを飲んでいました。（主人は走っているので朝夕2回）それは、野菜のエキスがスープに出て体の中にスッと入っていくように感じます。とかく余りがちな野菜が上手く使え、四季折々の旬の野菜でいろいろなスープを楽しむことができます。太陽の光と大地の恵みをいっぱい吸収した野菜スープの味は格別です。

皆さん、関心のある方は、インターネットで調べたり、本屋で手にしてみてください。ぜひ、お勧めします。

江本 順子

通信発行連絡先；宿理 092-944-5924

“緑のまちづくりの会” HP アドレス ⇒ <http://www.koga-midori.com/>